

琉球大学学術リポジトリ

米国管理下の南西諸島状況雑件 沖縄関係 沖縄復帰準備委員会(1) (代表者会議第1回～第6回)

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43738

第一回 命令 (45・3・24)

通電番号) 外務省電信案 (分類)

機密表示 (極秘・秘の朱印)	符号表示 暗 略 平	総第 13644 号
秋相	第 10 号	昭和 年 月 日 時 分 発 19.3.19 10 52
大至急	緊急	普通・LTF 発電係 314

大臣 政務次官 事務次官 外務審議官 外務審議官 官房長	主管 アメリカ局長 参事官 北米才一課長	主管局部課(室)名 米北 / 起案 昭和 25 年 3 月 19 日 起案者 吉川 電話番号 445
---	-------------------------------	---

協議先
~~報道課長~~

大使 臨時代理大使
在那霸高瀬 総領事 代理 であて 夏知 大臣 発

電 在 大使 臨時代理大使
報 報 総領事 代理 であて

件名 準備委員会第1回会合

往電第9号に用い.

準備委員会第1回会合に討打本大臣視

辞及公費代表挨拶和英文各2別電

1.2.3月20日迄9通り.
(準備委員会参考資料に添付)

以上. 公費代表挨拶(英訳文兼録記)
(録記)

(※印刷内は電信課記入)

(昭和四二・七一改正)

GB-1

に付き、貴代表において和文案と対し
検討の上貴見あはす回電ありた。早く
また修正の要あり場合はも各々回電
ありた。 (以上で英訳文と確定ありた)
12110

17)

GB-3

外務省

電信課長
19

字
済

19 186
56

外務省電信案 (分類)

機密表示 (極秘・秘の朱印)	符号表示 暗 略 平	総第 13645 号
	第 11 号	※昭和 年 月 日 時 分 発
	大至急 急 普通・LTF	※ 発電係 31

大臣 政務次官 事務次官 外務審議官 外務審議官 官房長	主管 アメリカ局長) 参事官) 北米才一課長	主管局部課(室)名 米北1 起案 昭和 45 年 3 月 19 日 起案者 吉川 電話番号 445
---	---------------------------------	--

協議先
報道課長

大使 臨時代理大使
在 **那高頼** 総領事 代理 あて **告知** 大臣 発

電 在 大使 臨時代理大使
報 報 総領事 代理 あて

件名 **準備委員会才一回会合**
往電米北1才 10 号別電。
準備委員会の初会合に対する外務大臣
祝辞 (※)
本日、準備委員会の才一回会合が開
催され、沖縄の復帰準備が本格的に開始

升
1

字
済

19 187

22

(※印欄内は電信課記入)

(昭和四二・七一 改正)

GB-1

されし運びとなりましたことについて、日本政府を代表して心からの祝意を表します。

昨年11月の佐藤総理大臣とニクソン大統領との会談において、1972年中に沖縄の施政権がわが国に返還されることについての基本的合意が成立したのであります。戦後4分の1世紀にわたり、法律、政治、経済、社会等のあらゆる分野で本土と異なる制度の下におかれ、また沖縄の復帰を円滑に行なうため、各般にわたり周到な準備を行なう必要があります。

私は、復帰準備に対する全般的責任を負う日米協議委員会の日本側代表の一人として、沖縄の復帰に万全を期

GB-3

外務省

すべく凡ゆる努力を傾注してまゐる考えて
 ありますが、復帰準備を真に効果的に
 進めるためには、^(現地)沖繩の実情に即した
 措置を講じて参ることが最も肝要で
 あります。その意味で、施政権が最終
 的にわが国に返還されるまでの間、沖
 繩の施政権を有する米國政府及び沖
 繩住民の民意と利益を代表する^(代表)琉球
 政府との緊密な協調協力の下に、措
 置を講じて参ることが必要であり、とく
 に、沖繩住民の民意と利益を考慮せず
 しては、我々の努力も真に効果的^(たり得)な
 ことは言うまでもありません。それ故に、
 私は、沖繩の施政の責任者たるラン
 パート高等弁務官が米國を代表して

出席し、また、沖繩住民の民意を代表する
 屋良^(代表)主席の参加する、この準備委員会
 の活動に大きな期待を寄せております。
 準備委員会の仕事は、複雑かつ
 広大な分野にわたる労多きものであり
 ます。しかし、私は、佐藤総理大臣と
 ニクソン大統領との間の沖繩返還に
 関する歴史的合意に導いた日米両
 国^(代表)間の深い友好と信頼に加うに
 本土復帰に対する屋良主席をはじめと
 する沖繩住民の熱意をもってすれば、
 かならずや満足すべき成果が得られ
 るものと確信しております。

(了)

（文）

準備委員会の初会合に於ける外務大臣祝辞
（案）

阿比川 龍
省 事務官
北米 米北一 洋長
多田 事務官

（文） 大臣 牧野 良三

四五三、一五、米北一（佐藤）

準備委員会の初会合に於ける外務大臣祝辞

本日、準備委員会の第一回会合が南催され、沖縄の復帰準備が本格的に開始される運びとなつたことに

つて、日本政府を代表して、心から祝意を表します。

昨年十一月の佐藤総理大臣とニクソン大統領との会談

において、一九七三年中に沖縄の施政権のわが国に返還されることについての日米両政府間の基本的合意が成立したのを

外務省

あります。戦後四十年の世紀にわたり、法律、政治、経済、社会等のあらゆる分野で、本土と異なつた制度の下に、あつて来た沖縄の復帰と同様に、行なうためには、~~準備~~ ^各 ~~委員~~ ^の 同様に、~~準備~~ ^の 行なう必要があると、~~思~~ ^考 します。

私は、復帰準備に於ける、全般的責任をどうも、日米

協議委員会の日本側代表の一人として、沖縄の復帰に、~~万~~ ^万 全の期すべく努力を傾注してまゐる考であり、~~な~~ ^り ます。

（文） 復帰準備の進展に効果的に進めるためには、

外務省

(回覧番号) 外務省電信案 (分類) 13647

機密表示 (極秘・秘の朱印)	符号表示 暗 略 平	※ 総第 13647 号
電信課長 年 月 日	※ 第 12 号	※ 昭和 45 年 3 月 19 日 時 分 発
	大至急 至急 普通・LTF	※ 発電係 301

(※印欄内は電信課記入)

大臣 政務次官 事務次官 外務審議官 外務審議官 官房長	主管 アメリカ局長 参事官 北米才一課長	主管局部課(室)名 米北1 起案 昭和45年3月19日 起案者 吉川 電話番号 445
--	-------------------------------	--

協議先
報道課長

在 **那覇高頼** **大使** 臨時代理大使
総領事 代理 大臣 発

電 在 大使 臨時代理大使
報 報 総領事 代理 大臣 発

件名 準備委員会才1回会分

往電米北1才 10 号別電ス。

字
済

19

501



(昭和四二・七一改正)

~~(DRAFT)~~

Message by His Excellency Kiichi Aichi,
Minister for Foreign Affairs,
to the First Meeting of the Preparatory
Commission on Tuesday, March 24, 1970,
in Naha, Okinawa

On behalf of the Government of Japan I wish to express my heartfelt congratulations on the memorable first meeting today of the Preparatory Commission. This occasion marks the initiation of full-scale preparatory work for the reversion of Okinawa.

At the talks between Prime Minister Sato and President Nixon in November last year, it was agreed in principle that the administrative rights over Okinawa be returned to Japan during 1972. For a quarter of a century since the end of World War II, the legal, political, economic and social systems in Okinawa have been different from those in Japan proper. In order to ^{bring} ~~bring~~ about a smooth transfer of administrative rights, it is imperative that thorough preparatory work for reversion should be carried out in every such field.

In my capacity as one of the representatives of the Japanese Government to the Japan-U.S. Consultative Committee
in

in Tokyo, which undertakes overall responsibility for the preparatory work, I am determined to make utmost efforts to assure careful preparations for the reversion of Okinawa. In order to carry out such preparatory work in a truly effective manner it is most important for us that the measures we take will truly fit the realities of Okinawa. Thus it goes without saying that we should work under conditions of closest harmony and cooperation with the United States, who retains the administrative rights till the moment of reversion, and the Government of the Ryukyu Islands, which is in a position to convey to us accurately the will and interests of the inhabitants of Okinawa, without consideration for which our efforts would not be truly effective.

That is why I expect so much from the Preparatory Commission where the High Commissioner of the Ryukyu Islands, General James B. Lampert, responsible for the administration of Okinawa, represents the United States Government and where the Chief Executive of the Government of the Ryukyu Island, ^{is} Mr. Chobyō Yara, representing the will of the Okinawan residents, participates.

The work of the Preparatory Commission will be laborious, covering as it does extremely complex and wide-ranging subjects.

It

It is my firm belief, however, that, with the deep friendship and trust existing between Japan and the United States, which made possible the historic agreement last November between Prime Minister Sato and President Nixon concerning the reversion of Okinawa, together with the fervent desires for reunification with the mainland of the Okinawan inhabitants, the endeavours of the Commission will surely be crowned with success.

(回覧番号) 外務省電信案 (分類)

機密表示 (極秘・秘の朱印)	符号表示 暗 略 (平) ※	総第 13672 号
第 13 号	※昭和 24 年 10 月 25 日発	
大至急 (3)	普通・LTF	発電係 222

大臣 政務次官 事務次官 外務審議官 外務審議官 目 房 長	主管 アメリカ局長) 参事官) 北米才一課長)	主管局部課 (室) 名 米北 1 起案 昭和 24 年 10 月 19 日 起案者 芳川 445
---	-------------------------------------	---

協議先
報道課長

在 羽瀨高瀬 (大使) 臨時代理大使
総領事 代理 あて 香知 大臣 発

電 在 大使 臨時代理大使
報 報 総領事 代理 あて

件名
準備委員会才一回会合
往電米北1才 / 0 号別電。
準備委員会の初会合における高瀬 [REDACTED]
日本政府代表の挨拶 (案)
ランパート高等弁務官、屋良行政主席ならびに
け出席の各位

(※印欄内は電信課記入)

(昭和四二・七一 改正)

GB-1

2

本日、準備委員会の初回会合が、開催される運びとなり米北池につき、日本政府代表として、また、ここに列席しております日本政府関係者に代り、心からの喜びの念を表したく存じます。

私は、日米琉諮問委員会の日本政府代表として、ここに居られる米琉双方の多くの方々とともに、この二年来、仕事をし参りました。日米琉諮問委員会は、ランパート高等弁務官、ランパート高等弁務官をはじめとする米國政府並びに琉球政府の協力を得て、沖縄の本土への一本化、沖縄住民の民生福祉の向上に多大の貢献をして参りました。諮問委員会の行なわれた勸告のすべては、来るべき沖縄の本土復帰に備えての準備作業の一端でありました。

GB-3

外務省

電信課長
代
3

字
済

19 189
277

3

その意味で、諮問委員会における日米琉球
政府の協力の経験は準備委員会に良い
教訓を残すものと信じます。

本日より始まる準備委員会の任務は、
昨秋の佐藤総理大臣とニクソン大統領の
会談により、1972年に実現することが確
定した沖縄の本土復帰に備えて沖縄で
行われるべき準備措置について、その実施計画
を確定して行くことである。従って、その
取り組むべき問題は、諮問委員会に較べ、
はるかに複雑にして広般な分野にわたる
ものである。

さらに、沖縄の本土復帰を円滑に
実施するという事は、日米両国政府に
とっては、昨秋の日米首脳会談の

4

輝い成果を実施に移すという歴史的な
事業であり、また、沖縄住民を含む日本国
民にとっては、戦後4分の1世紀にわたり
外国の施政権下に暮れた同胞を祖国
に迎え入れ、日本の国家も社会もその
本来の姿に戻すという画をあげて取り組む
べき事業であります。

準備委員会が、かかる重大な使命を
全うするためには、日米両政府の代表及び
顧問として参加する琉球政府行政主席
並びに委員会の活動に参加する日米琉
球政府の関係者のすべてが、心を一つに
して緊密に協力することが何よりも肝要
なこととは言ってもありません。

私は、日米琉球諮問委員会の活動

を通じて得られた日米琉球政府間の協力の経験が準備委員会の場に生きて来ると確信するものでありますが、ここに改めて、日本政府を代表して、本委員会の活動に対する日本政府の全幅の協力を約束するとともに、ランポート高等弁務官をはじめとする米国政府関係者並びに屋良主席をはじめとする琉球政府のいち協力を願う次第であります。

(7)

1.

準備委員会の初会合における高橋日本政府代表
の挨拶 (案)

四五・三一五・米比一 (佐藤)

ラバート高等弁務官、厚生行政主席、ならびに御出席
各位。

本日は準備委員会の初会合の開催となる運び
となりましたことにつき、日本政府を代表して、また、ここに
列席してありまう日本政府関係者に代り心からの
喜びの念を表したいと存じます。

2.

私は、日米米比協内委員会の日本政府代表として、こゝ
に居らるる米比双方の多くの方々と、中絶の事案の
25の事案
ともに併せてして

下俤に、中絶に伴う民生福祉の向上のために努めやうと
りました。日米米比協内委員会は、集りアーカーン前高等
弁務官、ラバート高等弁務官をけしめとする米内政府
と厚生行政の協力を得る、~~所期~~の目的を果したるべき
確信いたしてあります。中絶の事案との一体に、中絶に伴う
民生福祉の向上に多大の貢献をせしめようとした。 ~~中絶の~~
行なつた報告のすへは

協内委員会、件、事、へ、中絶の事案、後場、に、備、え、て、の

5.

日米両政府の代表 ~~は~~ ^{各々} 閣内として参加する
 臨時政府行政官席並に委員会の活動に参加する
 日米琉三政府の關係者のすべてが一心として一致して
 協力するに何よりも必要なことは云うまでもありません
 私は日米琉三政府の各委員会の活動を通じて亦 ~~亦~~ ^亦 日米琉
 三政府内の協力の ~~促進~~ ^{経路} 準備委員会の場を生きて
 来ると信じ ~~て~~ ^る 確信するものと存じます。ここに
 改めて日本政府を代表して、本委員会の活動に参する
 日本政府の全協の協力をお約束するとともに、

外務省

6.

高等弁務官としていぬとす米國政府内係者 ^{並に} 閣内
 として参加する臨時政府の御協力をお願ひする。次
 へあります。

外務省

(回覧番号) 外務省電信案 (分類)

機密表示 (極秘・秘の朱印)	符号表示 暗 略 平	※ 総第 13673 号
電信課長	※ 第 14 号	※ 昭和 45 年 3 月 19 日 時 分 発 45.3.19 20.41
	大至急 至急 普通 LTF	※ 発電係 (1)

(※印刷内は電信課記入)

大 臣 政務次官 事務次官 外務審議官 外務審議官 官 房 長	主管 アメリカ局長 参事官 北米才一課長	主管局部課(室)名 米北1 起案 昭和45年3月19日 起案者 吉川 電話番号 445
--	-------------------------------	--

協議先
報道課長

在 大使 臨時代理大使
藤高瀬 総領事 代理 吉川 大臣 發

電 在 大使 臨時代理大使
報 報 総領事 代理 吉川 大臣 發

件名 準備委員会才1回会合

往電米北1才10号別電4.

45

字 済

19 190

629

(昭和四二・七一改正)

大田 正 巳

- 2 -

Remarks by Japanese Government Representative
Jiro Takase at the First Meeting of
the Preparatory Commission
in Naha, Okinawa

(Draft)

March , 1970

General Lampert, Chief Executive Yara
and gentlemen;

On behalf of the Japanese Government and its officials concerned who are present here, I wish to express my heartfelt congratulations for the first meeting of the Preparatory Commission today.

In my capacity as the Japanese Government Representative to the Advisory Committee to the High Commissioner of the Ryukyu Islands, I have been working for the last two years together with many of you present here both on the American and Okinawan sides. The Advisory Committee has thus far made great contributions toward the promotion of "ITPAIKA" between Okinawa and Japan proper as well as the improvement of the welfare and well-being of the Okinawan residents, backed by the cooperation from the Government of the United States represented by the former High Commissioner Ferdinand T. Unger and his successor

General

General James B. Lampert and from the Government of the Ryukyu Islands as well. All the recommendations made by the Advisory Committee have constituted a part of the entire preparatory work for the reversion of Okinawa. Therefore, I believe that the experience of cooperation between the Governments of Japan and the United States and the Government of the Ryukyu Islands will turn out to be truly instructive to the future operation of the Preparatory Commission.

The mission of this Preparatory Commission is to decide on implementation schedules of measures to be taken in Okinawa in preparation for the return of Okinawa to Japan which is to take place during 1972 as agreed upon between Prime Minister Sato and President Nixon at their talks last fall.

Accordingly, matters to be handled by the Preparatory Commission will be far more complicated and extensive than those handled by the Advisory Committee.

Further, for the Governments of the United States and Japan, the realization of a smooth transfer of the administrative rights over Okinawa to Japan is an undertaking of historic significance in that it means the carrying into effect of the glorious achievement of the Japan-U.S. Summit

Talks

Talks last fall, while for the Japanese people including Okinawan residents, it is an undertaking requiring the nation-wide efforts in that it represents the restoration of our country, both in the structure of state and society, to their intrinsic form, by welcoming our fellow people back to the mother country, who have been kept under the administration of a foreign country for a quarter of a century after the War.

Needless to say, in order that the Commission could fulfil its missions of such significance, it is important more than anything else for all the parties concerned, namely, the representatives of the Governments of Japan and the United States, the Chief Executive of the Government of the Ryukyu Islands, participating in this Commission as advisor, and all those concerned of the three respective Governments who take part in the activities of the Commission as well, to cooperate closely with each other in an efficient teamwork.

I am confident that the experiences of cooperation between our three Governments during the course of the activities of the Advisory Committee will prove of good account in the forthcoming activities of the Preparatory Commission. In this connection, I should like to take

this

this opportunity to confirm on behalf of the Japanese Government that it is determined to extend every possible cooperation to the activities of the Preparatory Commission, and at the same time, I sincerely ask for further cooperation from the U.S. Government officials concerned including General Lampert as well as from the GRI officials concerned including Chief Executive Mr. Yara.

Thank you.

Check against
delivery

Remarks by Japanese Government Representative
Jiro Takase at the First Meeting of
the Preparatory Commission
in Naha, Okinawa

March 24, 1970

General Lampert, Chief Executive Yara and gentlemen;

On behalf of the Japanese Government, I wish to express my heartfelt congratulations for the first meeting of the Preparatory Commission today.

In my capacity as the Japanese Government Representative to the Advisory Committee to the High Commissioner of the Ryukyu Islands, I have been working for the last two years together with many of you present here on both the American and Okinawan sides. The Advisory Committee has thus far made great contributions toward the promotion of "ITTAIKA" between Okinawa and Japan proper as well as the improvement of the welfare and well-being of the Okinawan residents. All the recommendations made by the Advisory Committee are thus regarded as having been a major contribution to the preparatory work as a whole for the reversion of Okinawa. Therefore, I believe that the experience of cooperation between the Governments of Japan and the United States and the Government of the Ryukyu Islands will turn out to be truly instructive to the future operation of the Preparatory Commission.

The mission of this Preparatory Commission is to decide on implementation schedules of measures to be taken in Okinawa in preparation for the return of Okinawa to Japan which will take place during 1972 as agreed upon between Prime Minister Sato and President Nixon at their talks last fall.

For the Governments of both the United States and Japan, achieving a smooth transfer to Japan of administrative rights over Okinawa is an undertaking of historic significance, because the magnificent statemanship of the Japan-U.S. summit talks last fall, will thereby be

put

- 2 -

put into effect. Furthermore, for the Japanese people including Okinawan residents, welcoming back part of our nation from a quarter-century of separation, and thus restoring the intrinsic unity of our state and society, is an undertaking calling for efforts of nation-wide magnitude.

Needless to say, in order that the Commission could fulfil its mission of such significance, it is important more than anything else for the representatives of the Governments of Japan and the United States, the Chief Executive of the Government of the Ryukyu Islands, participating in this Commission as advisor, and all those from the three respective Governments who take part in the Commission's activities, to work closely in union with one mind.

I repeat my conviction that the experiences of cooperation in the Advisory Committee between our three Governments will bear fruit in the forthcoming activities of the Preparatory Commission. I should like to take this opportunity to promise, on behalf of my Government, its complete cooperation with regard to the activities of the Preparatory Commission. At the same time, I am sincerely hoping for unchanged cooperation from General Lampert and his people, as well as from the Chief Executive, Mr. Yara, and the officials from the GRI.

Thank you.

ソカヒ 万大博阪

大政務外外(官) 典房
 務次 臣官審審長長
 備総人電厚計
 備電大会營給

國資長 参調析企
 領移長 参領旅移

ア 参地中東
 長 北東西
 (参北北保)
 中 参 二
 南 参西東洋
 審 西東
 歌 長

近ア長 参審近ア
 経 次総経国万

長 参賀統三
 経 参政技二
 協 国一理
 長 (参条協組)
 国 参政経科
 長 参道内外
 情 一二

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

50/

電信写

総番号(TA) 12640 主管
 70年 3月 19日 13時 42分 ナハ 発着 米北1
 70年 3月 19日 14時 38分 本省 着
 外務大臣殿 高瀬(大使) 臨時代理大使 総領事 代理

70V7024 南会式次第

第32号 平
 往電第17号とも72送付した(70V7024) 南会式次第第3次第のうち、
 りありする。(B)3条 (agreement that following items should be studied by alternate) 又39(A)条 (work program to be considered by the Commission hereafter) と夫々訂正
 ありたく、従つて(B)3の議題に伴
 なる合意文案を下記通りとすること
 考慮して13カ右に差文之存す中。

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

往電第29号の英と合め回電あり
 記
 準備委員会の運営に関する次の事項
 について、早急に代表代理及
 顧問代理の会議において検討を
 行なわせその結果を次の準備委員
 会の会議に報告せしめようとする。
 1. 委員会今後の検討事項
 2. 小委員会の種類、数及び名称
 3. 普通費用の見積及び分担方法。
 (B)

-2-

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

186

外務省
 事務次長
 典房
 官有審長
 長
 備給
 給
 国長
 参調析企
 参領旅移

電信写

70年 月 日 時 分
 70年 3月 20日 19時 29分
 本 省 着 米北1

外務大臣殿 高瀬大使 臨時代理大使 総領事 代理

準備委員会

オ34号 平

主電オ29号に關し

1. (7)を(8)とし、(6)の次に(7)として次の規定を挿入したいので貴見至急御回答願いた
 い。

(7) 発表の決定

委員会の討議内容については発表の当日及び
 発表する場合におけるその内容会評の齟齬協
 定決定する。

(17)

(2200 米北1課長へ連絡済み 電付済)

中東
 北東
 西
 保
 中南
 西東
 西東

近
 万

統
 二
 一

政
 科

社
 外

一二

(回覧番号) 外務省電信案 (分類)

機密表示 (極秘・秘の朱印)	符号表示 暗 略 平	※ 総第 14051 号
	※ 第 16 号	※ 昭和 年 月 2020 時 00 分 発
	大至急 至急 普通 LTF	※ 発電係 萩

電信課長
山

(※印欄内は電信課記入)

大臣 政務次官 事務次官 外務審議官 外務審議官 官房長	主管 アメリカ局長 参事官 北米第一課長	主管局部課(室)名 米北1 起案 昭和 5 年 3 月 20 日 起案者 芳川 電話番号 445
---	-------------------------------	---

協議先

大使 臨時代理大使
在 羽瀨高瀬 総領事 代理 愛知 大臣 発

電 在 大使 臨時代理大使
報 在 総領事 代理 愛て

件名 準備委員会式次才
貴電才32号に関し、
冒頭貴電の修正は差支之ない。但し
準備委員会の今後の検討事項につ
は、目下、復帰準備に関する「原則と
指針」を在京米国大使館と非公式に

(昭和四二・七一 改正)

GB-1

話し合いを開始した段階(4月早々にも)
協議会を開催(採択の予定) ^{右原則に指針の確立するまで(16)}
準備委代表の理レベルにおける検討
に ~~関係~~ ても、~~非公式~~ 非公式の予備的
話し合いに止め ~~おとされたり~~ たり。
(おろ留意)

(31)

GB-3

外務省

済

60

20 241

(1-7112)

↓

万六 博飯

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

39

電信写

大政事外外機官
 務務 典房
 次次
 臣官官務務長長
 儀総 厚計
 儀文会管給

参調析企
 参領旅移

参地中東
 長 北東西
 参北北偏
 中南
 参西東洋
 長 西東

参書近ア
 次総経国万

参實統国
 参政枝二
 国一理

参条協規

参政経科

参社專

参海内外

一二

総番号(TA) 21833 主管
 70年5月7日13時10分 ナハ 発着
 70年5月7日15時41分 本省 米北

外務大臣殿 高橋 大使 臨時代理大使 総領事 代理

準備委員会の現地名称

マ35号 年

現地における正式名称は準備委員会
 日本国政府代表事務所 THE OFFICE OF THE

REPRESENTATIVE OF THE GOVERNMENT OF JAPAN TO THE

PREPARATORY COMMISSION とすことか適当と考之

られりとす。右何方の儀回電願つたら

(3)

原簿

952, 外務省電信案 (分類)

機密表示 (極秘・秘の朱印) 平	符号表示 暗 略 平	総第 25495 号
第 29 号	昭和 45 年 5 月 8 日 19.07 分 発	
大至急 至急 普通 LTF		発電係 十林又

大臣 政務次官 事務次官 外務審議官 外務審議官 官房長	主管 アメリカ局長 参事官 北米才一課長	主管局部課(室)名 米北1 起案 昭和45年5月8日 起案者 吉川 電話番号 445
---	-------------------------------	---

協議先
官房長事務次官 文書課長
官房書記官

大使 臨時代理大使
在 那霸 高瀬 準備委代表 総領事 代理 愛知 大臣 発

電 在 大使 臨時代理大使
報 総領事 代理 愛知

件名 準備委現地名称

貴電第35号に用い、
貴事務所の現地^(正式)呼称は、往信文第5号
を以て送付の公印に示す、次のとおりと
す小たい。

日本文 沖縄復帰準備委員会 日本国政府

電信課長
3/3

字
済

8 165
50

(※印欄内は電信課記入)

(昭和四二・七・一改正)

GB-1

代表事務所
(英文 The Office of the Japanese
Government Representative
to the Preparatory Commission
in Okinawa)
(3)

GB-3

外務省

ソカヒ 万大 博阪

大政事外外僑官
務務 典房
次次 審審長長
臣官官 審審長長
儀儀 総人 覧厚計
儀書文会營給

参調析企
参領旅移

参地中東
長 北東西
参北北保
中南審
参西東洋
長 西東

近参審近ア
長 次總經國万

長参實統國
經 参政技二
協 国一理

参協規

長参政經科

長軍社專

長情長参道内外

長文長一二

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

総番号(TA) 13596 主管
70年3月17日 17時22分 ナハ 発着 米北1
70年3月24日 20時05分 本省 着

外務大臣殿 高瀬(大使) 臨時代理大使 総領事 代理

準備委員会 (秘扱)

等子平

準備委員足式等、国会議は予定通り滞りなく終了した。なお本会議において特に屋良顧問より

(1) 及び(2)の通り発言があったので何等の参考もなし。

(1) 議題「準備委員の運営について」

19(6)に開連し本委員会における決定事項は100万県民の重大関心事であるので可能な限り発表ありよう

高瀬

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

希望する旨発言した。本使、レポートとともに顧問の意圖するところを委員会における発表について論議する際出来るだけ顧問の意を汲み正当な努力をしようと述べておいた。

(2) 屋良は本委員会に顧問として参加するが委員会の決定はすべて県民の立場に重大な影響を及ぼすものから従って実質的には日米両政府代表と同等の立場で発言し得るものと解しているところ、この点について確認し、本使より県民の代表たる屋良顧問の発言には周到な注意を払う用意があるので自由に発言されるよう述べておいた。

なお右にフオランハートより本使の意見

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

全く同意であり沖縄赴任にあたり「ラ」が佐野総理往訪に際し同総理より沖縄の人々が日本の国民である点に充分配慮ありよう要請され至諱あり、自分としては総理のこの言葉を忠実に守りたいと強調した。

(3) 本会議では代理会議で検討された3つの事項原案通り承認し在外次期会合日も5月6日とする事に合意した。また本使より本使代理として正式発令ありまで賀陽が臨時代理と認められ旨発言し合意を得た。(13)

- 3 -

秘

ソシと 万大 博阪

大政事務次官
外務省
典房
長官
審議官
長官
秘書長
人電厚計
儀書文会當給

国資長領移長
参調析企
参領旅移

ア参地中東
長北東西
参北北保
中南審歐
参一
参西東洋
長西東

近了長経
参審近ア
次総経国万

長経協長参
参質統国
参政技二
国一理

参参協規
参改経科

長情長文長
軍社専
参道内外

一二

秘

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

総番号(TA) / 3595 主管
70年 月 日 時 分 ナハ 発着
70年 3月 24日 19時 31分 本省 米北
20時 05分

外務大臣殿 高瀬 (大使) 臨時代理大使 総領事 代理

発足式当日記者会見(連)

等子子子平

2日午後2時半より行なわれ記者会見(本使、ランハート、主席出席)(通訳

)の概要下記の通り。

なお冒頭本使より次回代表会議は5月の第1水曜日(6日)に開催することか合意され旨披露しておいた。

()
70/7/24は何時頃か、具体的な交渉帰対策に取組むか。

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

(本使) 代表代理会議において小委員会
の設置などにつき予備的検討を進め
る一方において コンコム 加近
南催されて フレフコム の活動につき
「指針と原則」を策定することになり、
次回代表会議までは、いわば「一輪
のボディ、トレーニング」として基礎造りに
専念することとなる。(レポートより
新しい案を造るには正しい書き真が
必要であると述べて上記発言を
エントースした)。

(2) ()

主席の所信如何。
(主席) 自分は顧問であり、他の2代
表と資格と異にするが代表並みの
気持で積極的に100万県民の利益

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

のため発言する決定である。

(1) ()

兼務官は言わば一輪の外支の渉に
携わることになりか 国務省 または 国
防省 から訓令と仰ぐような体制とな
るか。

(兼務官) 兼務官の仕事は復帰時まで
継続する。フレフコムはコンコム
ローカルな機構でありから自分もこの南
信のもとで位置づけられよう。

(2) なお () より本件 フリス
ステートメントに於いて東京において
午前10時に発表あり当地の午後2
時半と相違ある旨の指摘あり、本使よ
りしかるべく陳年しおきたるも今後二
輪の手違いが起らざるよう早手配
願いたい。(13)

外務省電信案 (分類)

機密表示 (極秘・秘の朱印) 符号表示 暗 略 平 ※ 総第 14999 号
 ※ 昭和 年 月 日 時 分 発 第 1 号 45.5.25 10 24
 大至急 至急 普通・LTF 発電係 204

大 臣 政務次官 事務次官 外務審議官 外務審議官 官 房 長
 主管 アメリカ局長 参事 北米第一課長
 主管局部課(室)名 米北1
 起案 昭和 45年 5月 25日
 起案者 青川 電話番号 445

協議先 報道課長

大使 臨時代理大使 在 高瀬 総領事 代理 愛知 大臣 発

電 報 在 大使 臨時代理大使 総領事 代理 愛知

件名 発足式当日記者会見

貴電オ37号の(二)に関し

1. 本省は、貴代表部と打合せの上、
 プレスステートメントについては「会議
 終了確認まで」いかん方法でも公表
 禁止」の embargo を付し、^(貴と同様) 止十に事前

(※印欄内は電信課記入)

(昭和四二・七一 改正)

GB-1

配布した次第であり、~~が指摘する~~
 が如き午前10時に発表した事実はない。
 又、~~が~~ 指摘の点に関し、貴地
 出張中の大河原アメリカ局参事官からの通報
 を受け早速報道課より「霞クラブ幹事(世間)
 及び ~~が~~ に対し事情説明するとともに
 本省の記者団へ打合せが行われ、
 記者側が「かかる行為をとらぬならば
 本省としても今後協力することはできない
 旨申し述べた」と、~~その旨を陳述した~~
 旨を申し述べた旨を参考まで。
 (3)

本米記者団の打合せは、大河原参事官の便宜のためは
 かわり措置をせられたにも拘らず、かかる行為は、
 本米記者団の打合せは、大河原参事官の便宜のためは
 かわり措置をせられたにも拘らず、かかる行為は、

充分注意すると述べ遺憾の意を表すとともに、
 幹事ともども以後同様の便宜を
 図るよう要望した。

GB-8

外務省

電信課長 佐 佐

字 済

25 174 118

副原 準備委員官 ^{アリ}
×_{メッセー} 新聞発表 ^棚

アメリカ局長
参事官
北米一課長

公 信 第 28 号
昭和 45 年 3 月 24 日

外 務 大 臣

愛 知 揆 一 殿

準備委員会日本国政府代表

高 瀬 侍 郎

準備委員会発足式における高等弁務官
挨拶文等の送付について

3月24日発足した準備委員会が当日一般公表した高等弁務官の

要処理 挨拶文等下記のとおり和英文各1部宛別添送付する。

記

- 準備委員会発足式における高等弁務官の挨拶
- 準備委員会の初会合に対する A. H. マイヤー駐日米大使のメツセージ
- 準備委員会の初会合における高瀬日本政府代表挨拶
- 準備委員会の初会合に対する外務大臣祝辞
- 準備委員会の初会合に対する屋良行政主席の挨拶

準備委員会発足式次第

45.3.27

日 本 政 府

- 準備委員会発足式出席者
- 新聞発表

付 属 添 付

日 本 政 府

アメリカ局長

参事官
北米第一課長

総沖第1019号

昭和45年3月26日

総理府特別地域連絡局長殿

日本政府沖繩事務所長

資料の送付につく

標記に関し、下記資料を各5部別添送付
す。

記

USCAR

News Release No. 70060~64

Press Statement

本信送付先：外務省アメリカ局長

要人
首席事務官
南方
渉外調査
漁業
航空
科学協力
連絡調整
調査
力夕夕
局連級



日 本 政 府

準
備
書
第
一
回
会
合
マ
テ
リ
ヤ
レ
ル
数
準
備
書

準備委員会発表資料

準備委員会発足式における高等弁務官の開会挨拶

一九七〇年三月二十四日

準備委員会の発足は、米國と日本及び沖繩住民との関係における歴史的ー里塚を意味するものであります。昨年十一月にニクソン大統領と佐藤総理大臣は、琉球列島の施政権を日本に返還するために日米兩國がその話し合いを急ぐべきであるとの決定を下しましたが、準備委員会はそれを実現する方向に向つての一つの極めて重要な動きであります。

復帰実現の日程が合意される以前の一九六八年三月、丁度今を去る二年前の今月に、日米琉諮問委員会が発足しております。爾来、諮問委員会は準備委員会が今回設置できるに至つた基礎作りをしてきました。勿論諮問委員会は、今日直ちになくなるものではなく、このための措置は日米兩政府間の公式合意を待たなければなりません。

幸いなことには、諮問委員会で立派に働いてきました経験豊かにして有能なスタッフが、準備委員会のために働くことになりました。準備委員会は、現地での復帰準備に伴なり多様な問題、すなわち現時点では、どの程度複雑性を持つていのか把握し難い諸問題に関係することになります。

新しい準備委員会には、特に注目に値する一つの面があります。諮問委員会は高等弁務官に対する諮問機関でありました。これに対して、準備委員会は、復帰のための準備に關して全般的責任を持つ東京にある日米協議委員会に対して報告と報告を行なうことになっております。

その意味におきまして、ここで駐日米國大使から準備委員会に宛てたメッセージを讀ませて頂くことは私の喜びとするところであります。それでは讀ませて頂きます。

マイヤー駐日米大使メッセージ

(別紙参照)

このよりの協同精神を以つて、私は日本政府代表高遠大使及び沖繩全住民の願望や必要としているものが復帰準備の過程に

において十分考慮されることを確約せしめる趣旨としての屋良行
政主席と共に準備委員会にのぞみたいと考えております。

この委員会を以つて、かつ、佐藤・ニクソン共同声明の
精神を全とうする決意を以つて、私達すべてが、この最も重要
な職務にたづさわると、私は確信いたします。

THE PREPARATORY COMMISSION
1-2 Tenpi Cho
Naha, Okinawa

March 24, 1970

Tel: (8) 6505
(9) 79182

TEXT OF MESSAGE FROM UNITED STATES HIGH COMMISSIONER JAMES B. LAMPERT
ON THE OCCASION OF THE INAUGURATION OF THE PREPARATORY COMMISSION
IN NAHA, OKINAWA

The inauguration of the Preparatory Commission represents an historic milestone in the relations of the United States with Japan and the people of Okinawa. The Commission constitutes a vital move toward the implementation of the decision reached in November of last year by President Nixon and Prime Minister Sato that the two governments should expedite consultations between them with a view to accomplishing the reversion to Japan of the administrative rights over the Ryukyu Islands in 1972.

It was just two years ago this month, in 1968, before a target date for reversion had been agreed upon, that the Advisory Committee was inaugurated. Since that time the Advisory Committee has laid the foundation on which we can now build the Preparatory Commission. The Advisory Committee will not, of course, go out of existence today, as this step must await formal agreement between the Governments of Japan and of the United States.

Fortunately, the Preparatory Commission will have the benefit of the experienced and capable staff which served the Advisory Committee so well. The Commission will be concerned with the great number and

variety of problems involved in local preparation for reversion, the full complexity of which is not easy to comprehend at this time.

There is one aspect of the new Commission that warrants particular attention. The Advisory Committee was an advisory body to the High Commissioner. In contrast the Preparatory Commission will make its recommendations and reports to the United States-Japan Consultative Committee in Tokyo, which has overall responsibility for the preparations for reversion.

In this connection, it gives me great pleasure to read at this time a message to the Preparatory Commission from the United States Ambassador in Japan. I quote:

(Ambassador Meyer's statement is read)

It is in this spirit of cooperation that I look forward to working on the Preparatory Commission with the representative of the Government of Japan, Ambassador Takase, and with Chief Executive Yara of the Government of the Ryukyu Islands who as adviser to the Commission will be able to insure that the desires and needs of all the people of the Ryukyus are given full consideration in reversion preparations. I am sure that we are all entering into this most important work with every determination to achieve the Commission's objective and fulfill the spirit of the Nixon-Sato communique.

Domo arigato gozaimashita.

準備委員会発表資料

準備委員会の初会合に対するA・H・マイヤー駐日米大使の挨拶

一九七〇年三月二十四日

日米協議委員会米国政府代表といたしまして、私は準備委員会の正式発足に際して心からの祝意を表する次第であります。

準備委員会は最も重要な仕事に関係するようになります。ニクソン大統領と佐藤総理大臣は、昨年十一月の会談において沖縄の復帰に伴う諸問題の複雑性を認め、両国政府が施政権が円滑に日本政府に移転されるようにするために必要な諸措置につき協議を行ない、協力すべきことに意見の一致をみました。準備委員会は、復帰準備を遂行するために必要な具体的諸措置についての現地における両政府間の協議及び調整のための唯一の公的経路として沖縄に設置されました。委員会は、顧問としての資格を有する琉球政府代表の参加を得て、勧告を

作成し、かつ、この復帰準備作業に対する全般的責任を含むよう機能が拡大された東京にある日米協議委員会に対して、その報告を行ないます。

委員会がこれから取り組もうとしている課題は、沖縄住民にとりましても、また日米両国にとりましても極めて重要なことであります。沖縄が日本の施政権下に復帰するということとは歴史的偉業であり、その偉業を成就する上で委員会は最も重要な役割りを果たすであります。

皆様の御成功を心から希望するものであります。

THE PREPARATORY COMMISSION
1-2 Tenpi Cho
Naha, Okinawa

March 24, 1970

Tel: (8) 6505
(9) 79182

TEXT OF MESSAGE FROM THE HONORABLE ARMIN H. MEYER,
UNITED STATES AMBASSADOR TO JAPAN,
ON THE OCCASION OF THE INAUGURATION OF THE PREPARATORY COMMISSION
IN NAHA, OKINAWA

The task which the Commission is about to undertake is vitally important to the people of the Ryukyus, and to the United States and Japan alike. The reversion of the Ryukyus to Japanese administration will be an act of historic significance; and this Commission will play a paramount role in bringing about that achievement.

Please accept my sincere wishes for your success.

(END)

As the U.S. representative on the United States-Japan Consultative Committee, I extend my best wishes on the occasion of the formal inauguration of the Preparatory Commission.

The Commission is involved in a task of the greatest importance. The complexity of the problems involved in the reversion of Okinawa was recognized by President Nixon and Prime Minister Sato at their meeting last November, and they agreed that the two governments should consult and cooperate on the measures necessary to assure a smooth transfer of administrative rights to the Japanese Government.

The Preparatory Commission has been established as the sole official channel on Okinawa for local consultation and coordination between the two governments on specific measures necessary for the carrying out of the preparations for reversion. The Commission, with the GRI representative serving in an advisory capacity, will formulate recommendations and report on its activities to the Consultative Committee in Tokyo, whose functions now have been broadened to include overall responsibility for this preparatory work.

準備委員会発足式次第

昭和45年3月24日
準備委員会合同庁舎会議室

- 1 開 会
- 2 米国政府代表挨拶（通訳）
駐日米国大使よりの祝辞披露（通訳）
- 3 日本国政府代表挨拶（通訳）
外務大臣よりの祝辞披露（通訳）
- 4 顧問挨拶（通訳）
- 5 各代表及び顧問による補佐要員紹介
- 6 閉 会

PROGRAM FOR INAUGURAL CEREMONY
OF
THE PREPARATORY COMMISSION
24 March 1970
at
PrepCom Conference Room

1. Opening
2. Statement by USG Representative (to be interpreted).
Message from US Ambassador to Japan (to be interpreted).
3. Statement by GOJ Representative (to be interpreted).
Message from Japanese Minister for Foreign Affairs (to be interpreted).
4. Statement by Adviser (to be interpreted).
5. Introduction of staff members by Representatives and Adviser.
6. Closing

準備委員会発足式出席者

昭和45年3月24日
準備委員会合同庁舎会議室

日本国政府側

高瀬 侍 郎	日本国政府代表
岸 昌	日本政府沖縄事務所長
大河原 良雄	外務省アメリカ局外務参事官
加藤 泰 守	総理府特別地域連絡局参事官
賀陽 治 憲	日本国政府代表付参事官
村田 幹 雄	同 上
間淵 直 三	同 上
佐々木 正 浩	日本国政府代表付調査官
長門 保 明	同 上
島田 治	同 上

米国政府側

ジェームス B. ランパート	米国政府代表
エディー W. ショット	米国政府代表代理
エドワード E. ベネット	副民政官
ジョン A. ミーツ	特別調査団 議長
ジョン F. ノールズ	政治顧問
ブルース T. フォールス	特別補佐官
フランク A. グレッグ	広報調整官
ダルトン. キリオン	駐日米国大使館員
リアン K. ウォルターズ	米国政府代表補佐要員
B. D. ビリングスレー	同 上

琉球政府側

屋 良 朝 苗	廳 問
知 念 朝 功	行政副主席
瀬 長 浩	廳問代理
座喜味 彪 好	廳問補佐要員
玉 木 重 雄	同 上

その他

ジョージ K. サンキ
大 城 盛 三
佐 多 千 代 野

準備委員会

那覇市天妃町1の2
(電話8-6505)

昭和45年3月24日

新聞発表

準備委員会は、本日、次のとおり発表した。

- 1 日本国政府とアメリカ合衆国政府との間の交換公文により去る3月3日那覇に設置された準備委員会は、3月24日同委員会庁舎においてアメリカ合衆国政府代表ジェームス・B・ランパート琉球列島高等弁務官、日本国政府代表高瀬侍郎大使及び顧問たる屋良朝苗琉球政府行政主席の下に発足式を行ない引続き第一回会議を行なった。
- 2 発足式において合衆国政府ランパート代表及び日本国政府高瀬代表は、各自のステートメントを発表した後、マイヤー駐日米大使及び愛知外務大臣より寄せられた祝賀メッセージをそれぞれ披瀝した。同じく屋良行政主席も、ステートメントを発表した。更に日米各国政府代表及び顧問は、それぞれのスタッフの紹介を行なった。
- 3 準備委員会は、第一回会議において委員会の運営に関する手続事項につき検討した。委員会が第一回会議で合意した事項の概要は次のとおりである。

- (1) 委員会は、原則として毎月1回第1水曜日に定例会議を開催するほか、必要に応じ臨時会議を開催する。
- (2) 委員会の会議は那覇市天妃町1の2に所在する準備委員会庁舎の会議室において開催する。
- (3) 委員会の公用語は、日英両国語とする。
- (4) 委員会の会議は、非公開とする。
- (5) 代表代理及び顧問代理は、毎週二回以上会議を開催する。
- (6) 委員会の活動を補佐させるため、必要に応じ各代表及び顧問の補佐要員又はそれぞれの政府職員の中から指名された者をもつて小委員会を設置する。
- (7) 会議の準備、記録の作成、保管、共通経費の処理等の事務を処理させるため合同事務局を設置する。
- (8) 委員会は、次の事項につき代表代理及び顧問代理をして早急に検討を行なわせることにした。
 - イ 委員会の今後の検討事項
 - ロ 小委員会の種類、数及び名称
 - ハ 共通費用の見積り及び分担方法
- (9) 次回の委員会の開催日は、追って発表する。

THE PREPARATORY COMMISSION
1-2 Tenpi Cho
Naha, Okinawa

March 24, 1970

Tel: (8) 6505
(9) 79182

PRESS STATEMENT

The Preparatory Commission issued the following statement today:

1. The Preparatory Commission, which has been established in Naha in accordance with the terms of the Exchange of Notes between the Government of Japan and the Government of the United States on 3 March, held its inaugural ceremony and first formal meeting in the building now housing the Commission on 24 March. In attendance were High Commissioner James B. Lampert, representing the Government of the United States, Ambassador Jiro Takase, representing the Government of Japan, and Chief Executive Chobyō Yara of the Government of the Ryukyu Islands as Adviser.

2. At the inaugural ceremony, High Commissioner Lampert and Ambassador Takase respectively read their own statements and followed by reading congratulatory messages from U.S. Ambassador to Japan Armin H. Meyer, and Foreign Minister Kiichi Aichi. Chief Executive Yara also read a statement. Thereafter, the Representatives and Adviser, respectively, introduced their staffs.

3. At the first formal meeting, the Commission reached agreement on procedural matters pertaining to its operation.

The gist of the matters agreed upon is as follows:

a. As a general rule, the Commission shall hold regular meetings on the first Wednesday of every month and also hold special meetings when necessary.

b. The meetings of the Commission shall be held in the conference room of the building now housing the Commission at 1-2 Tenpi-Cho, Naha-Shi (Building T-60).

c. The official languages of the Commission shall be Japanese and English.

d. Meetings of the Commission shall be held in closed session.

e. Meetings of the Alternate Representative and Alternate Adviser shall be held not less frequently than twice each week.

f. To assist the activities of the Commission, it shall form such subcommittees as may be required, composed of members appointed by each Representative and Adviser, respectively, from his staff or from among other officials of his government.

g. A Joint Secretariat shall be established to conduct such business as directed.

h. The Commission directed the prompt study of the following items by the Alternate Representatives and the Alternate Adviser:

(1) Work program to be considered by the Commission.

(2) Types, number, and names of subcommittees.

(3) Estimate of common expenses and method of sharing them.

1. The date of the next meeting of the Commission will be announced later.

(END)

準備委員会発表資料

準備委員会の初会合における高瀬日本政府代表挨拶

昭和四十五年三月二十四日

ランパート高等弁務官、屋良行政主席並びに各位
本日準備委員会の第一回会合が開催される運びとなりました
ことにつき、日本政府を代表して心からの慶びの念を表したい
と存じます。

わたくしは、日米琉諮問委員会の日本政府代表として、ここ
における米琉双方の多くの方々とともにこの二年来仕事をし
まいりました。日米琉諮問委員会は、沖縄の本土との一体化
と沖縄住民の民生福祉の向上に多大の貢献をしてみいました。
諮問委員会の行なつた勸告のすべては、来るべき沖縄の本土復
帰に備えての準備作業の一端でありました。その意味で諮問
委員会における日米琉三政府の協力の経験は準備委員会による
教訓を残すものと信じます。

本日より始まる準備委員会の任務は、昨年秋の佐藤総理大臣
とククソン大統領との会談により一九七二年に実現することが
確定した沖縄の本土復帰に備えて、沖縄で行なわれるべき準備
措置についてその実施計画を確定してゆくこととあります。

さらに沖縄の本土復帰を円滑に実施するということは、日米
両国政府にとっては昨年秋の日米首脳会談の輝やかなしい成果を
実施に移すという歴史的な事業であり、また、沖縄住民を含む
日本国民にとっては戦後四分の一世紀に亘り外国の施政権下に
暮らした同胞を祖国に迎え入れ、日本の国家も社会もその本来
の姿に戻すという国をあげて取り組むべき事業であります。

準備委員会がかかる重大な使命を全うするためには、日米両
政府の代表及び顧問として参加する琉球政府行政主席並びに委
員会の活動に参加する日米琉三政府の関係者のすべてが心を一
つにして緊密に協力することがなによりも肝要なことはいくら
でもありません。

わたくしは、日米琉諮問委員会の活動を通じて得られた日米
琉三政府間の協力の経験が準備委員会の場に生きてくると確信

するものでありますが、ここにあらためて日本政府を代表して
本委員会の活動に対する日本政府の全幅の協力をお約束すると
ともにランバート高等弁務官を始めとする米國政府関係者並び
に屋良主席を始めとする琉球政府の御協力をお願いする次第で
あります。

THE PREPARATORY COMMISSION
1-2 Tenpi Cho
Naha, Okinawa
March 24, 1970

Tel: (8) 6505
(9) 79182

REMARKS BY JAPANESE GOVERNMENT REPRESENTATIVE JIRO TAKASE
AT THE FIRST MEETING OF THE PREPARATORY COMMISSION
IN NAHA, OKINAWA

General Lampert, Chief Executive Yara and gentlemen:

On behalf of the Japanese Government I wish to express my heartfelt congratulations for the first meeting of the Preparatory Commission today.

In my capacity as the Japanese Government Representative to the Advisory Committee to the High Commissioner of the Ryukyu Islands, I have been working for the last two years together with many of you present here on both the American and Okinawa sides. The Advisory Committee has thus far made great contributions toward the promotion of "ITTAIKA" between Okinawa and Japan proper as well as the improvement of the welfare and well-being of the Okinawa residents. All the recommendations made by the Advisory Committee are thus regarded as having been a major contribution to the preparatory work as a whole for the reversion of Okinawa.

Therefore, I believe that the experience of cooperation between the Governments of Japan and the United States and the Government of the Ryukyu Islands will turn out to be truly instructive to the future operation of the Preparatory Commission.

The mission of this Preparatory Commission is to decide on implementation schedules of measures to be taken in Okinawa in preparation for the return of Okinawa to Japan which will take place during 1972 as agreed upon between Prime Minister Sato and President Nixon at their talks last fall.

For the Governments of both the United States and Japan, achieving a smooth transfer to Japan of administrative rights over Okinawa is an undertaking of historic significance, because the magnificent statesmanship of the Japan-U.S. summit talks last fall, will thereby be put into effect. Furthermore, for the Japanese people including Okinawa residents, welcoming back part of our nation from a quarter-century of separation, and thus restoring the intrinsic unity of our state and society, is an undertaking calling for efforts of nation-wide magnitude.

Needless to say, in order that the Commission could fulfil its mission of such significance, it is important more than anything else for the Representatives of the Governments of Japan and the United States, the Chief Executive of the Government of the Ryukyu Islands, participating in this Commission as adviser, and all those from the three respective governments who take part in the Commission's activities, to work closely in unison with one mind.

I repeat my conviction that the experiences of cooperation in the Advisory Committee between our three governments will bear fruit in the forthcoming activities of the Preparatory Commission.

I should like to take this opportunity to promise, on behalf of my Government, its complete cooperation with regard to the activities of the Preparatory Commission. At the same time, I am sincerely hoping for unchanged cooperation from General Lampert and his people, as well as from the Chief Executive Mr. Yara, and the officials from the GRI.

(END)

準備委員会の初会合に対する外務大臣祝辞

昭和四十五年三月二十四日

本日準備委員会の第一回会合が開催され、沖縄の復帰準備が本格的に開始される運びとなりましたことについて、日本政府を代表して心からの祝意を表します。

昨年十一月の佐藤総理大臣とニクソン大統領との会談において、一九七二年中に沖縄の施政権が我が国に返還されることについての基本的合意が成立したのでありますが、戦後四分の一世紀に亘り法律、政治、経済、社会等のあらゆる分野で本土と異なつた制度の下に置かれてきた沖縄の復帰を円滑に行なうため、各般に亘り周到な準備を行なう必要があります。

私は復帰準備に対する全般的責任を負う日米協議委員会の日本側代表の一人として、沖縄の復帰に万全を期すべくあらゆる努力を傾注してまいりますが、復帰準備を真に効果的に進めるためには、沖縄現地の実情に即した措置を講じてまい

ることが最も肝要であります。その意味で、施政権が最終的に我が国に返還されるまでの間、沖縄の施政権を有する米国防府及び沖縄住民の民意と利益を代表すべき琉球政府との緊密な協調、協力の下に措置を講じてまいることが必要であり、特に沖縄住民の民意と利益を考慮せずしては、われわれの努力も真に効果的たりえないことはいうまでもありません。それ故にこそ、私は沖縄の施政の責任者たるランバート高等弁務官が、米国防府を代表して出席し、また沖縄住民の民意を代表する屋良主席の参加することの準備委員会の活動に大きな期待を寄せております。

準備委員会の仕事は複雑、かつ、広範の分野に亘る労多きものであります。しかし、私は、佐藤総理大臣とニクソン大統領のあいだの沖縄返還に関する歴史的合意に導いた日米両国間の深い友好と信頼に加うるに、本土復帰に対する屋良主席を始めとする沖縄住民の熱意をもつてすれば必ずや満足すべき成果が得られるものと確信しております。

THE PREPARATORY COMMISSION
1-2 Tenpi Cho
Naha, Okinawa
March 24, 1970

Tel: (8) 6505
(9) 79182

TEXT OF MESSAGE FROM HIS EXCELLENCY KIICHI AICHI, MINISTER FOR FOREIGN AFFAIRS,
GOVERNMENT OF JAPAN, ON THE OCCASION OF THE INAUGURATION
OF THE PREPARATORY COMMISSION IN NAHA, OKINAWA

TO: The First Meeting of the Preparatory Commission on Tuesday,
March 24, 1970, in Naha, Okinawa.

On behalf of the Government of Japan I wish to express my heartfelt congratulations on the memorable first meeting today of the Preparatory Commission. This occasion marks the initiation of full-scale preparatory work for the reversion of Okinawa.

At the talks between Prime Minister Sato and President Nixon in November last year, it was agreed in principle that the administrative rights over Okinawa be returned to Japan during 1972. For a quarter of a century since the end of World War II, the legal, political, economic and social systems in Okinawa have been different from those in Japan proper. In order to bring about a smooth transfer of administrative rights, it is imperative that thorough preparatory work for reversion should be carried out in every such field.

In my capacity as one of the Representatives of the Japanese Government to the Japan-U.S. Consultative Committee in Tokyo, which undertakes overall responsibility for the preparatory work, I am determined to make utmost efforts to assure careful preparations

for the reversion of Okinawa. In order to carry out such preparatory work in a truly effective manner it is most important for us that the measures we take will truly fit the realities of Okinawa. Thus it goes without saying that we should work under conditions of closest harmony and cooperation with the United States, who retains the administrative rights till the moment of reversion, and the Government of the Ryukyu Islands, which is in a position to convey to us accurately the will and interests of the inhabitants of Okinawa, without consideration for which our efforts would not be truly effective.

That is why I expect so much from the Preparatory Commission where the High Commissioner of the Ryukyu Islands, General James B. Lampert, responsible for the administration of Okinawa, represents the United States Government and where the Chief Executive of the Government of the Ryukyu Islands, Mr. Chobyō Yara, representing the will of the Okinawan residents, participates.

The work of the Preparatory Commission will be laborious, covering as it does extremely complex and wide-ranging subjects.

It is my firm belief, however, that, with the deep friendship and trust existing between Japan and the United States, which made possible the historic agreement last November between Prime Minister Sato and President Nixon concerning the reversion of Okinawa, together with the fervent desires for reunification with the mainland of the Okinawan inhabitants, the endeavours of the Commission will surely be crowned with success.

(END)

準備委員会発表資料

準備委員会の初会合に対する屋良行政主席の挨拶

昭和四十五年三月二十四日

ランバート高等弁務官、高瀬大使ならびに来賓の皆様
私ども百万の県民が多年にわたって熱願し続けてきた沖縄の
祖国復帰が、昨年十一月の日米共同声明によつていよいよ一九
七二年中に実現されることになりましたことを心から喜んでい
るものであります。

そして、いまここに、その約束を果たすための沖縄の復帰に
かんする準備委員会が正式に発足しましたことは、私どもにと
つては、復帰が現実に具体化し、沖縄の新しい歴史が書き綴ら
れていくことを意味するものであり、感慨ひとしおなものをお
ぼえます。

皆様ご承知のように、沖縄が現在置かれている立場からして
その復帰を円滑に達成するためには早急に解決しなければなら

ない幾多の問題が横たわっております。

幸い、この委員会の設置にかんする交換公文には、「沖縄県
民の利益および琉球政府の意見を十分考慮に入れる」と明記さ
れております。私は、この委員会に顧問として参加すること
になりましたが、私は、復帰の当事者である沖縄県民を代表す
るものとして県民の意思を十分反映させるとともに、日米両政
府代表と緊密な連絡をとつて後世のためにも悔いのない復帰実
現のため全力を傾注する決意であります。

私は復帰準備委員会がこれから取り組む仕事は沖縄県の回復、
ひいては日本国の完全な独立につながるものであることから、
その使命の重大さを強く認識するものであります。幸い、日
米両国政府は、有能な代表を任命されましたし、私は、委員
会が沖縄県民の福祉を第一義的にとらえ、それぞれの代表の密接
な協力関係を通して沖縄県民の期待し、願望する円滑な復帰と
強固な基盤による健全な沖縄県づくりのためその職責を全うす
るよう心から念願いたします。

THE PREPARATORY COMMISSION
1-2 Tenpi Cho
Naha, Okinawa
March 24, 1970

Tel: (8) 6505
(9) 79182

TEXT OF MESSAGE FROM THE HONORABLE CHOBYO YARA,
CHIEF EXECUTIVE OF THE GOVERNMENT OF THE RYUKYU ISLANDS,
ON THE OCCASION OF THE INAUGURATION OF THE PREPARATORY COMMISSION
IN NAHA, OKINAWA

High Commissioner Lampert, Ambassador Takase and distinguished
guests:

It is a great pleasure for me that the reversion of
Okinawa to Japanese administration for which we, a million prefec-
tural people of Okinawa, have strongly wished for many years will
finally be realized within the year 1972 as promised in the joint
statement by President Nixon and Prime Minister Sato of last
November.

In order to carry out their promise, the Preparatory
Commission for the reversion of Okinawa makes its official start
today. I am full of deep emotion since this means that the steps
toward reversion of Okinawa will actually be carried out to mark
the start of new history of Okinawa.

As you know, because of the situation under which
Okinawa is now placed, there are many problems which require
earlier solution for the purpose of accomplishing the reversion
of Okinawa smoothly.

Fortunately, the Exchange of Notes regarding the es-
tablishment of the Commission states specifically that the two

governments will take into full consideration the interest of the
inhabitants of Okinawa and the views of the Government of the
Ryukyu Islands. I am to participate in the Commission as Adviser,
and I am resolved, as the representative of the Okinawa Prefectural
people, who are actually involved in the reversion, to fully reflect
their will and concentrate all my energies on the realization of
reversion without leaving any source of regret through close co-
operation with the representatives of the Japanese Government and
the United States Government.

Since the work to be tackled by the Preparatory
Commission is related to the restoration of Okinawa Prefecture and
eventually to the perfect independence of Japan, I do recognize
well enough the importance of its mission. We are fortunate that
the two governments have appointed their respective representatives
who are quite able and competent. It is my earnest desire that
the Commission will give primary importance to the welfare and
wellbeing of the Okinawa Prefectural people and will fulfill its
mission to prepare for the smooth reversion and the realization of
sound Okinawa Prefecture on the strong foundation as expected and
desired by the Okinawa Prefectural people.

(END)

THE PREPARATORY COMMISSION
1-2 Tenpi Cho
Naha, Okinawa
March 24, 1970

Tel: (8) 6505
(9) 79182

EMBARGO	EMBARGO	EMBARGO
NOT FOR PUBLICATION, BROADCAST OR TELECAST UNTIL DELIVERY EXPECTED AFTER 1 P.M., TUESDAY, MARCH 24, 1970		
EMBARGO	EMBARGO	EMBARGO

NOTE TO EDITORS:

Attached for your use are five messages of congratulations issued on the occasion of the inauguration of the Preparatory Commission. They are embargoed until delivery expected after 1 p.m., Tuesday, March 24, 1970.

The messages are from: Japanese Foreign Minister Kiichi Aichi, United States Ambassador to Japan Armin H. Meyer, High Commissioner of the Ryukyu Islands James B. Lampert, Japanese Ambassador Jiro Takase and Government of the Ryukyu Islands Chief Executive Chobyu Yara.

Please guard against premature publication, broadcasting or telecasting of the five messages.

(END)

編集者へ:

ここに添付されているのは、準備委員会の発会式に際して送られる祝賀メッセージですが、1970年3月24日(火)午後1時まではその発表が禁止されています。

これらの祝賀メッセージは、愛知外務大臣、マイヤー駐日米大使、ランパート高等弁務官、高瀬日本政府代表及び屋良行政主席からのものであります。

これらのメッセージを決められた時間以前に発表することを控えて下さい。

(完)

禁 止	禁 止	禁 止
1970年3月24日(火)午後1時までは報道を控えること		
禁 止	禁 止	禁 止

あり(3新に入手
あり) 在米大使
館より入手あり

(大任加中世平式) あり
北米第一課 あり

アメリカ局長

参事 あり

報道課長 ~~あり~~ 北米第一課 ~~あり~~

準備委員会発足に対するマイヤー
大使メッセージ

(昭和25.3.25)
米北1

本日、本件メッセージを在米
米大使館 シュミッツ顧問より入手し
(は参考までに)
ので、は高意に供します。

Congratulatory Message from Ambassador Meyer on the
Opening Meeting of the Preparatory Commission

As the U.S. Representative on the United States-Japan Consultative Committee, I extend my best wishes on the occasion of the formal inauguration of the Preparatory Commission.

The Commission is involved in a task of the greatest importance. The complexity of the problems involved in the reversion of Okinawa was recognized by President Nixon and Prime Minister Sato at their meeting last November, and they agreed that the two Governments should consult and cooperate on the measures necessary to assure a smooth transfer of administrative rights to the Japanese Government.

The Preparatory Commission has been established as the sole official channel on Okinawa for local consultation and coordination between the two Governments on specific measures necessary for the carrying out of the preparations for reversion. The Commission, with the GRI Representative serving in an advisory capacity, will formulate recommendations and report on its activities to the Consultative Committee in Tokyo, whose functions now have been broadened to include overall responsibility for this preparatory work.

The task which the Commission is about to undertake is vitally important to the people of the Ryukyus, and to the United States and Japan alike. The reversion of the Ryukyus to Japanese administration will be an act of historic significance; and this Commission will play a paramount role in bringing about that achievement.

Please accept my sincere wishes for your success.

Armin H. Meyer
American Ambassador

4/3/25

在
京
米
大
レ
ニ
ミ
シ
ン
ノ
解
内
レ
入
手
レ
米
記
一

(8) IT 口頭交渉
加=40 並にV七
5/23 (T13)

アメリカ局長
事務官
北米第一
(8) 110 領
事務官
023

準備委員会 (8) 201 7-1-120

那覇市天妃町 192
昭和 25 年 3 月 24 日

新聞発表

準備委員会が本日次のとおり発表した。

1. 日本国政府とアメリカ合衆国政府との
間の交換公文により去る3月3日那覇市に

設置された準備委員会が、3月24日
同委員会弁論においてアメリカ合衆国

政府代表として B. ランポート環球
列島高等弁務官、日本国政府代表

高瀬侍郎大使及び顧問の屋良
朝苗環球政府行政出席のことは発足
主席

式を行ひ、引き続き初回会議を行はる。

23日(月) 午後 11 時 30 分 閣議 決定

2. 発足式において、合衆国政府の代表
及び日本国政府高瀬代表は各自

のステートメントを発表した後、又仲一
駐日米大使及び顧問外務大臣の

等とされた祝賀メッセージをそれぞれ披
露した。同じく屋良行政主席もステート

メントを発表した。さらに、日米各
国政府代表及び顧問等、それぞれ

スタッフの紹介を行はれた。

3. 準備委員会が、初回会議において

委員会の運営に用いる手続事項につき
検討した。委員会が初回会議

で留意した事項の概要は次のとおり
である。

(1) 委員会は、原則として毎月1回
初/水曜日に定例会議を開催

する。また、必要に応じて臨時会議を
開催する。

(2) 委員会の会議は、那覇市天妃町
192に所在する準備委員会庁舎の

会議室において開催する。

(3) 委員会の公用語は、日英両国語と
する。

(4) 委員会の会議は、非公開とする。

(5) 代表代理及び顧問代理は、毎週
2回以上会議を開催する。

(6) 委員会の活動と補佐をせよとのこと、
必要に応じて、各代表及び顧問の

補助要員またはその他の政府職員
の中から指名されたものを、小委員会

を設置する。

(7) 会議の準備、記録の作成、保管、

共通経費の処理等の事務を処理せよ
とのこと、合同事務局を設置する。

(8) 委員会は、次の事項につき代表代理
及び顧問代理として早急に検討を

行はせよとのこととする。

イ 委員会の今後の検討事項

ロ 小委員会の種類、数及び名称

ハ 共通費用の見積り及び分担方法

(9) 次回の委員会開催日は、直ちに
発表する。

文相了

アメリカ局長

参事官

北米才一課長

1

The Preparatory Commission

1-2, Tenpi-cho, Naha, Okinawa

24 March, 1970

PRESS STATEMENT

The Preparatory Commission issued the following statement today:

1. The Preparatory Commission, which has been established in Naha in

accordance with the terms of the Exchange of Notes between the

Government of Japan and the Government of the United States on 3 March, held

its inaugural ceremony and the first formal meeting in the building now

GA 6

外務省

2

housing the Commission on 24 March. In attendance were ~~the~~ High Commissioners

James B. Lampert, representing the Government of the United States,

Ambassador Jiro Takase, representing the Government of Japan and Chief

Executive Chobyo Yara of the Government of the Ryukyu Islands

as adviser.

2. At the inaugural ceremony,

High Commissioner Lampert and Ambassador Takase respectively read

their own statements and followed by reading congratulatory messages

GA 6

外務省

from U.S. Ambassador Meyer to Japan and Foreign Minister ~~Yara~~

Aichi. Chief Executive Yara also read a statement. Thereafter, the

Representatives and Advisers respectively introduced their staffs.

3. At the first ^{formal} meeting, the Commission reached agreement on

procedural matters pertaining to its operation. The list of the matters

agreed upon is as follows:

a. As a general rule, the Commission

shall hold regular meetings on the first Wednesday of every month

and also hold special meetings when necessary.

b. The meetings of the Commission shall be held in the conference room

of the building now housing the joint secretariat of the Commission

at 1-2, Tenpi-cho, Naha-shi (Building T-60).

c. The official languages of the Commission shall be Japanese and

English.

d. Meetings of the Commission shall

be held in closed session.

e. Meetings of the Alternate Representatives

and Alternate Adviser shall be held not less frequently than twice each

week.

f. To assist the activities of the

Commission, it shall form such subcommittees as maybe required,

composed of members appointed by each Representative and Adviser,

respectively from his staff or from among other officials of his

Government.

g. A joint secretariat shall be

established to contact such business as directed.

h. The Commission directed the prompt study of the following items by the

Alternate Representatives and the Alternate Adviser:

(1) Work program to be considered by the Commission

(2) Types, number, and the names of subcommittees

(3) Estimate of common expenses and method of sharing them.

i. The date of the next meeting of the commission will be announced

later.

注意
24日13時00分まで公表禁止
いかなる方法でも

注意
会議終了 確認までいかなる方法でも 公表禁止

準備委員会の初会合における
高瀬日本政府代表の挨拶

昭和四十五年三月二十四日

ランパート高等弁務官、屋良行政主席ならびに御出席の各位
本日、準備委員会の第一回会合が開催される運びとなりました
ことにつき、日本政府を代表して、心からの喜びの念を表した
いと存じます。

私は、日米琉諮問委員会の日本政府代表として、ここに居ら
れる米琉双方の多くの方々とともに、この二年来、仕事をして参
りました。日米琉諮問委員会は、沖縄の本土との一体化と、沖縄
住民の民生福祉の向上に多大の貢献をして参りました。諮問委員
会の行なつた勧告のすべては、来るべき沖縄の本土復帰に備えて
の準備作業の一端でありました。その意味で、諮問委員会におけ
る日米琉三政府の協力の経験は準備委員会に良き教訓を残すもの

と信じます。

本日より始まる準備委員会の任務は、昨年秋の佐藤総理大臣とニ
クソン大統領の会談により、一九七二年に実現することが確定し
た沖縄の本土復帰に備えて沖縄で行なわれるべき準備措置につい
て、その実施計画を確定して行くこととあります。

さらに、沖縄の本土復帰を円滑に実施するということは、日米
両国政府にとつては、昨年秋の日米首脳会談の輝かしい成果を实施
に移すという歴史的な事業であり、また、沖縄住民を含む日本国
民にとつては、戦後四分の一世紀にわたり外国の施政権下に暮し
た同胞を祖国に迎え入れ、日本の国家も社会もその本来の姿に戻
すという国をあげてとり組むべき事業であります。

準備委員会が、かかる重大な使命を全うするためには、日米両
政府の代表及び顧問として参加する琉球政府行政主席並びに委員
会の活動に参加する日米琉三政府の関係者のすべてが、心を一つ

にして緊密に協力することが何よりも肝要なことは言うまでもありません。

私は、日米琉諮問委員会の活動を通じて得られた日米琉三政府間の協力の経験が準備委員会の場に生きて来ると確信するものがあります。ここに改めて、日本政府を代表して、本委員会の活動に対する日本政府の全幅の協力をお約束するとともに、ランパ―ト高等弁務官をはじめとする米國政府関係者並びに屋良主席をはじめとする琉球政府の御協力をお願いする次第であります。

Embargoed until 1 : 0 p.m., Mar. 24

Check against
delivery

Remarks by Japanese Government Representative
Jiro Takase at the First Meeting of
the Preparatory Commission
in Naha, Okinawa

March 24, 1970

General Lampert, Chief Executive Yara and gentlemen;

On behalf of the Japanese Government, I wish to express my heartfelt congratulations for the first meeting of the Preparatory Commission today.

In my capacity as the Japanese Government Representative to the Advisory Committee to the High Commissioner of the Ryukyu Islands, I have been working for the last two years together with many of you present here on both the American and Okinawan sides. The Advisory Committee has thus far made great contributions toward the promotion of "ITTAIKA" between Okinawa and Japan proper as well as the improvement of the welfare and well-being of the Okinawan residents. All the recommendations made by the Advisory Committee are thus regarded as having been a major contribution to the preparatory work as a whole for the reversion of Okinawa. Therefore, I believe that the experience of cooperation between the Governments of Japan and the United States and the Government of the Ryukyu Islands will turn out to be truly instructive to the future operation of the Preparatory Commission.

The mission of this Preparatory Commission is to decide on implementation schedules of measures to be taken in Okinawa in preparation for the return of Okinawa to Japan which will take place during 1972 as agreed upon between Prime Minister Sato and President Nixon at their talks last fall.

For the Governments of both the United States and Japan, achieving a smooth transfer to Japan of administrative rights over Okinawa is an undertaking of historic significance, because the magnificent statemanship of the Japan-U.S. summit talks last fall, will thereby be

put

- 2 -

put into effect. Furthermore, for the Japanese people including Okinawan residents, welcoming back part of our nation from a quarter-century of separation, and thus restoring the intrinsic unity of our state and society, is an undertaking calling for efforts of nation-wide magnitude.

Needless to say, in order that the Commission could fulfil its mission of such significance, it is important more than anything else for the representatives of the Governments of Japan and the United States, the Chief Executive of the Government of the Ryukyu Islands, participating in this Commission as advisor, and all those from the three respective Governments who take part in the Commission's activities, to work closely in union with one mind.

I repeat my conviction that the experiences of cooperation in the Advisory Committee between our three Governments will bear fruit in the forthcoming activities of the Preparatory Commission. I should like to take this opportunity to promise, on behalf of my Government, its complete cooperation with regard to the activities of the Preparatory Commission. At the same time, I am sincerely hoping for unchanged cooperation from General Lampert and his people, as well as from the Chief Executive, Mr. Yara, and the officials from the GRI.

Thank you.

注意 24日13時00分まで公表禁止
いかなる方法でも

注意 会議終了 確認までいかなる方法でも 公表禁止

準備委員会の初会合に対する外務大臣祝辞

昭和四十五年三月二十四日

本日、準備委員会の第一回会合が開催され、沖縄の復帰準備が本格的に開始される運びとなりましたことについて、日本政府を代表して心からの祝意を表します。

昨年十一月の佐藤総理大臣とニクソン大統領との会談において、一九七二年中に沖縄の施政権がわが国に返還されることについて、基本的合意が成立したのでありますが、戦後四分の一世紀にわたり、法律、政治、経済、社会等のあらゆる分野で本土と異なつた制度の下におかれて来た沖縄の復帰を円滑に行なうため、各段にわたり周到な準備を行なう必要があります。

注意

私は、復帰準備に対する全般的責任を負う日米協議委員会の日本側代表の一人として、沖縄の復帰に万全を期すべくあらゆる努力

を傾注してまいりる考えであります。復帰準備を真に効果的に進めるためには、沖縄現地の実情に即した措置を講じて参ることが最も肝要であります。その意味で、施政権が最終的にわが国に返還されるまでの間、沖縄の施政権を有する米国政府及び沖縄住民の民意と利益を代表すべき琉球政府との緊密な協調協力の下に、措置を講じて参ることが必要であり、とくに、沖縄住民の民意と利益を考慮せずしては、我々の努力も真に効果的たり得ないことはいうまでもありません。それ故にこそ、私は、沖縄の施政の責任者たるランパート高等弁務官が米国政府を代表して出席し、また、沖縄住民の民意を代表する屋良主席の参加する、この準備委員会の活動に大きな期待を寄せております。

準備委員会の仕事は、複雑かつ広範な分野にわたる労多きものであります。しかし、私は、佐藤総理大臣とニクソン大統領の間の沖縄返還に関する歴史的合意に導いた日米両国間の深い友好と信頼に加うるに、本土復帰に対する屋良主席をはじめとする沖縄住民の熱意をもつてすれば、かならずや満足すべき成果が得られるものと確信しております。

Embargoed until 1 : 0 p.m. Mar 24 against
delivery

Message by His Excellency Kiichi Aichi,
Minister for Foreign Affairs,
to the First Meeting of the Preparatory
Commission on Tuesday, March 24, 1970,
in Naha, Okinawa

On behalf of the Government of Japan I wish to express my heartfelt congratulations on the memorable first meeting today of the Preparatory Commission. This occasion marks the initiation of full-scale preparatory work for the reversion of Okinawa.

At the talks between Prime Minister Sato and President Nixon in November last year, it was agreed in principle that the administrative rights over Okinawa be returned to Japan during 1972. For a quarter of a century since the end of World War II, the legal, political, economic and social systems in Okinawa have been different from those in Japan proper. In order to bring about a smooth transfer of administrative rights, it is imperative that thorough preparatory work for reversion should be carried out in every such field.

In my capacity as one of the representatives of the Japanese Government to the Japan-U.S. Consultative Committee in Tokyo, which undertakes overall responsibility for the preparatory work, I am determined to make utmost efforts to assure careful preparations for the reversion of Okinawa. In order to carry out such preparatory work in a truly effective manner it is most important for us that the measures we take will truly fit the realities of Okinawa. Thus it goes without saying that we should work under conditions of closest harmony and cooperation with the United States, who retains the administrative rights till the moment of reversion, and the Government of the Ryukyu Islands, which is in a position to convey to us accurately the will and interests of the inhabitants of Okinawa, without consideration for which our efforts would not be truly effective.

That

That is why I expect so much from the Preparatory Commission where the High Commissioner of the Ryukyu Islands, General James B. Lampert, responsible for the administration of Okinawa, represents the United States Government and where the Chief Executive of the Government of the Ryukyu Islands, Mr. Chobyō Yara, representing the will of the Okinawan residents, participates.

The work of the Preparatory Commission will be laborious, covering as it does extremely complex and wide-ranging subjects.

It is my firm belief, however, that, with the deep friendship and trust existing between Japan and the United States, which made possible the historic agreement last November between Prime Minister Sato and President Nixon concerning the reversion of Okinawa, together with the fervent desires for reunification with the mainland of the Okinawan inhabitants, the endeavours of the Commission will surely be crowned with success.

一般情報

第 6 3 号

一 目 次

昭和 4 5 年 3 月 2 0 日

1. 情文局長記者会見 (1 9 日)
 - 沖繩復帰のための準備委員会第 1 回会合
 - カンボジア情勢
2. 1 9 日の夕刊から
 - 中曾根長官、国防方針再検討を表明
3. 一面トップ記事 (1 9 日夕刊)
4. 人 事 (2 0 日付)
5. 愛知大臣定例記者会見 (2 0 日)
6. 社 説 (1 9 日、2 0 日付各紙)
 - カンボジア政変
7. 一面トップ記事 (2 0 日朝刊)

情報文化局報道課

2

情文局長記者会見 (1 9 日)

○ 沖繩復帰のための準備委員会第 1 回会合
標記会合は、3 月 2 4 日より那覇市の日米
琉諮問委員会合同事務所で開催される。

本委員会会合には、日本側から日本政府代
表高瀬大使、米側から米国政府代表ランパー
ト高等弁務官、また沖繩現地側から本委員会
の顧問となる屋良琉球政府行政主席が出席す
る予定である。

(なお、外務省より大河原アメリカ局参事
官、また総理府より加藤特別地域連絡局参事
官が出席する。)

○ カンボジア情勢

現在 (日本時間 1 9 日 1 7 時) までに入つ
た情報によると、K D D のプノンペンとの電
信は 1 3 : 5 0 時に、電話は 1 4 時に開通し
たとのことである。また在カンボジア力石大
使から 1 4 時 3 0 分頃入った公電 (先方日本
時間 1 1 時 3 0 分頃発電) によると、1 9 日
現在プレクトノット O P 協力隊、商社関係、
当地旅行者など邦人の日常生活は全員平常通
り、またアンコールも平静で邦人旅行者も無
事であるが帰国の見通しがたたず困っている

おもむきである。その他、プノンベンの町の状況は一応平常とみられるが、対華僑の商活動は阻害されているようである。警備兵の姿も目立って減少したが、空港閉鎖と外国通信の禁止は続いているし、精米は2割方値上りしているおもむきである。

「シ」殿下の家族（モニク妃と3人の子供及びモニク妃の母）はいずれも国外にあり、従来「シ」殿下に近かつた要人も殆んど国外逃亡ずみのもようである。

18日逮捕された BUON HOLL に代り MY SYCHAN 中佐がプノンペン中央警視總監に任命され市内の治安に当っているおもむきである。

なお、19日付国営紙カンボージュは18日付の政府コミュニケを掲載しているとのことである。

2 19日の夕刊から

○ 中曾根長官、国防方針再検討を表明

自民党は19日、安全保障調査会の総会を開き、中曾根防衛庁長官を招いて今後の国防の基本方針を中心に意見交換を行なった。

席上、同長官は次のような所見を明らかにした。

(一) 私の就任以来、外交政策と防衛対策の関連を重視し外務省、防衛庁の間で単なる形式的なものでないつつこんだ話し合いを進めている。軍事力は各国の外交戦略の道具として使われているが、今後はわが国としては平和確保のため外交に重点を置いて考えて行きたい。

これに関連して、防衛力に対するシビリアン・コントロールの確立の問題が出てくるが、現在、国会に常任委員会として防衛委員会がないことは致命的な欠陥である。すみやかに防衛委員会を設置するよう提唱しているのはこのためである。

(二) 防衛問題は「情報戦争」といわれるほど情報の収集分析が重要だ。専守防御というわが国の立場からも情報網の拡充強化は、ぜひ必要である。

(三) 現在の国防の基本方針は昭和32年に制定されたもので(1)国連協力(2)愛国心の高揚と国民的基盤の強化(3)国力、国情に応じた防衛力の漸増(4)外敵の侵入には日米安保条約を基調にして対処——の4点だが、国際情勢などの変化から必ずしも現状に合わな

くなっている。このため、今国会終了後防衛庁でも現状に合致するものに改めることを検討したい。(毎日)

3. 一面トップ記事(19日夕刊)

朝日——「カンボジア情勢の焦点はシアヌーク殿下の出方に移る。米・英、緊急協議を開始」

毎日、読売、サンケイ——「米ABC放送は、シアヌーク殿下がモスクワ出発の際“モスクワか北京に亡命政府を樹立するつもりだ”と語った旨報じる。同殿下はけさ北京入り」

日経——「ラオスでの共産軍の攻勢、カンボジア政変で揺れ動くインドシナ半島。米、ベトナム戦略の広範な再検討へ。共産勢つけ込み心配」

東京——「今夜、両独首脳会談。ブランド首相、エルフルトへ出発」

4. 人事(20日付)

兼ニジエール駐節

象牙海岸大使 片岡 秋

特命全権公使に任命(閣議決定)
アメリカ在勤

アメリカ公使 中 晴 雄

ドイツ一書

ポーランド一書 木村 敬 三

沖縄復帰準備委員会日本政府代表

沖縄島那覇に設置される
諮問委員会の委員となる 高瀬 侍 郎
日本国政府代表

同代表随員

日本政府沖縄事務所

	次 長	賀 陽	治 憲
同	参 事 官	村 田	幹 雄
同	同	間 淵	直 三
同	調 査 官	佐々木	正 浩
同	同	長 門	保 明
同	同	島 田	治 治
同	同	岡 野	雄 浄

(準備委員会への日本国政府代表に関する臨時措置法案を今国会に提出しているが、同臨時措置法成立までの間、琉球諸島高等弁務官

に対する諮問委員会の日本国政府代表を外務公務員法による政府代表として準備委員会の日本国政府代表に任命し、また、その随員として日本政府沖繩事務所配属され、諮問委員会日本国政府代表を補佐している職員を発令するものである。)

5. 愛知大臣定例記者会見(20日)

カンボジアの状況を閣議で報告した。

3月18日に「カ」外務省から大使館あてに口上書がきた。その中では、「3月18日に開催された国民議会、王国会議が全会一致でシ殿下から元首の職務をはく奪することを可決し、国民議会会長 CHENG HENG が新元首が選出されるまで元首代行となることになった」「従前カンボジアが友好国および国際機関と結んだすべての約束を尊重する意志を再確認する」「カの憲法、独立、主権、厳正中立、領土保全には何等の変更がないことを再確認する」等がのべられている。

やはり政変と呼ぶべきだと思う。政変という

言葉を使うのは一寸どうかなとも思うけれども、先方は憲法の手続に従って満場一致でやったというんだから。承認とかいう問題にはならないと思う。口上書をうけとつたままでもう少しいるよりほかないと思う。

シ殿下に対しては国内でもまだ人気もあるんでしょうし、国際的にも流動的だから、しばらく静観するより他なかるう。法律的な問題は事務当局にきいて下さい。

背景としては、シ殿下の中立政策に対してもう少し西欧寄りにした方がよいというのがかねてからの軍部、国会等の強い勢力であつたようにみうけられる、これが11日のデモなどをきっかけに外遊中に一挙にこのような措置がとられたとみるべきだと思う。但し、ベトナム戦争との関係や今後の推移などについては流動的なので断定的には云えない。

今日だけでも閣議決定の国会提出条約案件は13件、その中には1925年のジュネーブ議定書が入っている。

6. 社説（19、20日付各紙）

○ カンボジア政変

各紙とも、今回のクーデターについては、まだ不確定の要素が多く、現時点においてカンボジアの新情勢がどのように発展し、どう落ち着くか断定することはできないとしながら、これによつてベトナムとラオスの中間にあつて同国が果たしてきた緩衝地帯的役割りが失われ、インドシナ情勢の流動化に一層の拍車がかげられること、特にベトナム戦争が事実上インドシナ全域に拡大される懸念があることを指摘、今最も重要なことはベトナム戦争の政治的解決を図ることだとしている。

（朝日）は、国内的原因は経済困難にあり、新政権が今後インドネシアのスハルト政権的な方向をとるとすれば、それは外国資本への国内経済の従属と、経済社会各部門間のギャップを広げることになつて新たな社会緊張を生み出すことになるとしている。

7. 一面トップ記事（20日朝刊）

各紙——「両独首相会談ひらく。シュトフ演説——東独の承認求める。ブランド演説——

分割の悲劇緩和を。次回は西独で」

日経——「残存輸入制限品目の自由化くり上げの事務当局案まとまる——来年前半で60品目の自由化を完了。48年度末には制限品目を30に減らす。具体品目の選定へ」